第 2017-19 号

恵みと真理のニュース

2017 年 5 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 命のある限り恵みと慈しみはいつもわたしを追う。主の家にわたしは帰り生涯、そこにとどまるであろう。

私は23歳の時に会社に通う中で教会を通い始めました。教会の人の紹介でキリスト教の通信講座を聴いてイエス様に対して知るようになりました。初めて教会に行ったのを忘れません。礼拝を捧げる間心がわくわくして以前は経験もしなかった喜びを体験しました。職場を移したことに家から近い教会に行ってわくわくする心で説教を聴きました。

26歳に結婚しました。旦那の職業と家庭環境など詳しく調べなくて紹介してくださった人の話だけ聞いてすぐ結婚しました。旦那はイエス様を全く知らない農村の青年でした。初めて会った日に私はクリスチャンです。”言ったら自分も軍隊で洗礼を受けて信仰生活が出来ないかと心配ですと言ったので結婚しました。田舎で新婚生活をはじめて1980年に主の恵みでアンヤンで引っ越しました。

ある日は長女が急に熱が出て大きい声で泣きました。夜遅い時間だから病院も閉まっていてどうしようもなく教会に行きました。十字架の前で切ない心で神様に祈りました。すると娘がいつ痛かったのかすぐ治りました。しかし、その時から旦那の霊的な戦いが始まりました。私が教会に行くことに旦那は怒って酷いときには家も入られないようにドアも閉めました。時間が経つほど迫害が酷くなる中で子供二人を育つのがとても辛くて苦痛でしたが、信仰を諦めませんでした。

イエス様を信じない旦那との葛藤で家庭を守るのが大変で苦しいときには礼拝の時間でなくてもすぐ教会に行って神様に祈りました。”それから、わたしを呼ぶがよい。苦難の日、わたしはお前を救おう。そのことによって／お前はわたしの栄光を輝かすであろう。」”（詩編50：15）この御言葉を握て祈りました。そして、 恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。（イザヤ41：10）御言葉を黙想して希望の中で忍耐しました。

たまには私も辛くて迫害を担得られなくて世の事に力を尽くして礼拝を疎かになって信仰が弱くなった時がありました。その時には土地を売る詐欺師に出会って全財産を失いました。”塵からは、災いは出てこない。土からは、苦しみは生じない。（ヨブ記5：7）御言葉が私に話す御言葉と思われます。

小さい店を運営して小さい部屋で住んでいましたが、恵みと真理教会に通う年取るおばあさんが私の店に来られ洗濯せっけんと恵みと真理ニュースくれて必ず読みなさいとしました。その執事さんが毎週ことにくれる恵みと真理ニュースの証を読んで多くの恵みを受けました。

足と腕が痛くてあちらこちら病院に行って検査をしてみたら治療が難しい リューマチ関節炎の診断を受けました。私はヒゼキヤ王のように涙を流しながら神様を祈りました。そして、旦那に病院に行くと話をしてその時から恵みと真理教会に通い始めました。当会長の牧師の説教を聴いて大きい慰めと力を受けました。牧師の神癒と祝福の祈りをする時にアーメンと答えて切にい神様を仰ぎました。私の信仰と希望が無駄にならないようにしてくださいました。治療してくださる神様の恵みと権能が私に望みました。ハレルヤ！全能なる慈しみ深い神様、私の傷ついた心も治してくださり、沈んでいた神霊に喜びが溢れるようにしてくださいました。

父親は酒が大好きで母親はうつ病を患いました。母はたまに記憶を失ったり人を見抜けない症状が酷くなって雪がたくさん降る冬に私の家に来ました。勧士と区域長達に祈りをして期間を決めて祈り始めました。水曜日には教会に行かないという母をつれて半強制的に車に乗せて教会に行きました。

教会の階段を上る間、母は礼拝室に入らないようにあがきをしながら耐えました。一緒に行った区域長達もその姿を見て母がすぐ治ると私を励ましてくださいました。私も母が礼拝に参席しないようにサタンが攻撃をするのと思いました。辛うじて一番後ろの席でかわいそうな母を考え切ない心で涙を流しながら礼拝を捧げました。そして、その次の日の朝、祈りの中で母が治ったとする神様の声が聞こえて来ました。本当でした。母を治療してくださいました。それだけでなくすぐ父親も救ってくださいました。ハレルヤ！

このような神様のしるしを見ても不信家族は相変わらず福音を排斥して信仰生活をする私を迫害します。しかし、私は”。主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。と話した御言葉に委ねて神様の時を待って祈っています。そして牧師がくださる御言葉に慰められ新しい力を得て福音を伝える楽しみで生きます。今まで多くの苦難の中でも信仰で従順してくださり、福音を伝える楽しむことで生きます。足りない私を主の働き人と用いられるように用いてくださる神様に感謝と賛美を捧げます。

”主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。主はわたしを青草の原に休ませ／憩いの水のほとりに伴い 魂を生き返らせてくださる。主は御名にふさわしく／わたしを正しい道に導かれる。 死の陰の谷を行くときも／わたしは災いを恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる。あなたの鞭、あなたの杖／それがわたしを力づける。 わたしを苦しめる者を前にしても／あなたはわたしに食卓を整えてくださる。わたしの頭に香油を注ぎ／わたしの杯を溢れさせてくださる。 命のある限り／恵みと慈しみはいつもわたしを追う。主の家にわたしは帰り／生涯、そこにとどまるであろう。”（詩編２３：１～６）アーメン

［信仰コラム］ 私は聖霊を信じます（2）

”私は聖霊を信ず”（使徒信条）

聖霊様がなさることと聖霊様の交わりに関して調べてみます。

第一は、聖霊様がどのようなことをなさるのかを調べてみましょう。

まず、聖霊様が罪人達になさることを見てみます。

一、罪に対して責められます。人がイエス様を信じなくては罪の許しを得る道はありません。イエス様の贖いの恵みを受けなくては審判と滅びを免れることができません。聖霊様は罪人達にこのような事実を悟らせてくださいます。二、義に対してこの世を責められます。神様が求められる義は罪を一度を犯さず、サタンの讒訴（ざんそ）が及ばないようにし、神様の前に堂々と立つことできる資格を言います。イエスキリストを信じると誰でも正しくなることを得るようにしてくださいます。聖霊様はこのような事実を人々が悟り、信じるようにしてくださいます。三、審判に対してこの世を責められます。サタンはエデンでアダムを誘い堕落するようにしてアダムが神様から受けた”この世を治める権勢”を横取りました。それから全世界は悪いもの、サタンの支配の下にあるようになりました。しかし、イエス様が十字架の上で私達の罪を贖い復活なさることでサタンの権勢を撤廃し、死の勢力から私達を放してくださいました。聖霊様は人々が罪に対して、義に対して、審判に対して悟るようにしてくださいます。そうして悔い改めイエス様を救い主と主として信じ、迎接するようにすることをなさいます。

次は、聖霊様が聖徒達になさることを調べてみます。

一、聖徒達を真理の中に導いてくださり神様の思いに従って生活できるようにしてくださいます。イエス様が復活昇天なさった後、10 日が絶ち聖霊降臨を体験した弟子達はイエス様が言われたお言葉がいちいち思い出されて、そのお言葉の意味が悟られました。そうして人々にそのお言葉を教えてそのお言葉通りに生きていきました。二、聖徒達を慰めて手伝ってくださいます。私達の力で耐えることのできない苦難に処された時に聖霊様が訪れて聖書のお言葉を通じて慰めてくださり様々な方法で手伝ってくださいます。三、私達が神様の子になったことを確証してくださいます。私達が自然に”神様、私の父なる神様”と呼ぶことは聖霊様が私達が神様の子になったことを証言してくださるからです。四、聖徒達に恵みを与えて実を実るようにしてくださいます。私達に臨み知識のお言葉の恵み、知恵のお言葉の恵み、霊を見分ける恵み、異言の恵み、異言を解く恵み、予言の恵み、聖霊によって癒す恵み、能力をを行う恵み、信仰の恵みを与えてくださり権能のある福音伝道者になるようにしてくださいます。そして、私達の中に宿られて私達の品性に変化を与え、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制の実を実るようにしてくださいます。五、聖徒達が復活するようにしてくださいます。イエスキリストが再臨なさる日、聖徒達が復活して変化された体を持つようになりますが、これは聖霊様がなさることであります。

第二は、聖霊様の交わりに関して調べてみます。

イエス様が離れて”別の助け主”でおられる聖霊様がお越しになることが聖徒達に有益な理由が何ですか？

一、イエス様が肉親を被ってこの世におられる時とは違って聖霊様は時間と空間の制限を受けず、同時にどこにでもおられて聖徒達のために働いてくださるからです。二、イエス様は限定された公の生涯期間に限定された地域の人々だけに福音を述べ伝えられたが、聖霊様は聖徒達に福音を述べ伝えるよう熱心と権能を与えてくださり全世界の全ての民に福音が述べ伝えられるようになさるからです。三、聖徒達がいつ、どこにいてもイエス様が共におられることを経験しながら生活できるようにしてくださるからです。聖徒達の信仰生活に現れる聖なる熱情と喜び、能力は聖霊様の交わりによることであります。

”私は聖霊を信ず”という信仰告白をする皆さんは積極的で能動的に聖霊様と深くて親密な交わりをしてください。物事を聖霊様に訪ねて議論し、聖霊様の教えと導き、指示を従ってください。そうして皆さんが物事で聖霊様の表れと能力を豊かに体験なさるよう祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

平和をつくり出す人

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

カインが弟アベルをねたみして結局弟を野に呼び出して打ち殺した人類最初の殺人の事件が創世記 4 章に記録されています。 その日の以後人類歴史は争うことと殺人のお話で点綴されたし血でごっちゃになりました。 人間社会にはどこでも反目、対立、争いがあります。 逆説的だが平和のために仕方なく戦争をするしかない場合もあまたあります。 平和のために労力して犠牲することは非常に貴いのです。 平和のために仲裁して献身する人々は住みやすい世の中を作る動き手です。 平和をつくり出す人は自分と隣りを幸せにする人です。 イエス様がおっしゃるのを “平和をつくり出す人たちは、さいわいである。”と 告げました。
今日は平和をつくり出す人になるために私たちがすべきことをよく見ます。

第一、他人と平和するために努力しなければなりません。

性格がとりどりである人々と交わって平和しようと労力することは大変な事です。 等しい事物を見てもこれに対して感じて判断するのが千態万象です。 そこに人は果てしない欲望を持っていて複雑な利害関係で結まれるようになります。 そのための時では悔しくて悔しい事に会ったりつらくて腹を立てる仕事に直面したりします。 こういうので平和のために努力しなければなりません。 平和のために怒るのを慎まなければなりません。 ヤコブの手紙 1 章 19 節に “愛する兄弟たちよ。このことを知っておきなさい。人はすべて、聞くに早く、語るにおそく、怒るにおそくあるべきである。” しました。 ローマ人への手紙 12 章には次のようにおっしゃっています。
“あなたがたは、できる限りすべての人と平和に過ごしなさい。愛する者たちよ。自分で復讐をしないで、むしろ、神の怒りに任せなさい。なぜなら、「主が言われる。復讐はわたしのすることである。わたし自身が報復する」と書いてあるからである。”（ローマ人への手紙 12:18,19).
平和のためにできる仕事とできない仕事を分別しなければなりません。 信仰の切開を曲げる事ではないなら骨切って平和をはからなければなりません。 不義に加わる事ではないなら力をつくして平和をはからなければなりません。 悔しくて悔しくても一つ一つ対応しようとしてはいけないです。 祈って神様の手に任せなければなりません。 平和のために幾分の損害は甘受しなければなりません。 相手先の境遇で考えて見れば “そんなこともできるね。” と理解するようになります。 不和の原因が自信にはないのか捜してみなければなりません。 そんなにすれば理解の心が生じて寛容する心も生じて解決策も易しく捜し出すようになります。 神様の面前意識を持って寛大な心を持つことができます。

ピリピ人への手紙 4 章 5 節に “あなたがたの寛容を、みんなの人に示しなさい。主は近い。” と言いました。 “怒るのを慎んでください。神様の手に任せてください。 幾分の損害は甘受してください。 相手の境遇で思ってください。 原因を自分から捜してみてください。 神様の面前意識を持ってください。” このような努力を通じて他人との関係で平和するようになったら心の平和と共に多い有益を得ながら享受するようになるでしょう。

第二、仲が良くなくて反目状態にある隣りを平和させる仲裁者にならなければなりません。

紛争する当事者をほったらかしておけば反目と対立が長期化されて激烈になりやすいです。 ここに紛争を調整して和解を仲裁する人が必要です。 平和をつくり出す人はさいわいであると言いました。 ここに “平和をつくり出す” という言葉は不和がある所に平和を持って来るように能動的で積極的に力をつくすことを言います。争う人の間で仲裁しようとすれば良い言葉だけ伝達しなければなりません。
加害者と被害者の間で仲裁するのはまことに大変な事です。 平和を作るために努力する仲裁は非常に大変な事です。 知恵と努力、犠牲と忍耐が必要です。 加害者が自分の過ちを認めない限り真正な和解は成立されないです。 加害者が気経に自分の過ちを自認めて容赦を求めるのが易しくないです。 だから平和させるためには過ちをしでかした者に悔い改めるように勧勉して手伝ってくれなければなりません。 被害者は加害者を許すことやはり決してたやすい事ではないです。 だから仲裁者は被害者が加害者を受け入れるように励まして手伝ってくれなければなりません。 クリスチャンは平和のための仲裁者として活躍するように神様から呼ばれを受けた人です。 積極的に出て家庭で、隣りで、教会で平和を成す役目をしなければなりません。 リンカーンは言うのを “花が植えることができる所であればいつも雑草を抜いて花を植えた人という言葉をきく願う。” と告げました。 人々の腹中から誤解て憎しみの雑草を抜いてくれて、理解と平和を植える人という言葉をきくことを目標にすることは立派な目標です。 隣りの間に往き来して平和を植える人は福があります。

第三、神様と睦まじくなるように不信者に福音を伝えなければなりません。

平和のために力をつくす事の中で一番美しくて珍しいことは福音を伝える事です。 神様と敵になった不信者が神様と睦まじくなるように導くことは極めて善良な事です。 罪は人を神様に対して敵対関係に置かれさせます。 罪人は神様と敵になっています。 神様と睦まじくなければこの世の中に住む間に心に真の平和を享受することができないです。 こんな人は死んだ後に天国で享受する永遠な平和に参加することができないのみならず永遠な火の池で苦痛するようになります。
神様と睦まじいためには義のあるようにならなければなりません。 しかし人間の努力と方途では義のあるようになる方法が永遠に全然ないです。

このような人生をあわれんで思った神様がイエス様をこの世の中に行かせて人間の罪をあがないさせました。 イエス様が罪人のために十字架に差し込まれる事ができなくたまらなくて葬られてから墓でまた生き返えました。 復活しました。 ローマ人への手紙 5 章には “わたしたちは、キリストの血によって今は義とされているのだから、なおさら、彼によって神の怒りから救われるであろう。 もし、わたしたちが敵であった時でさえ、御子の死によって神との和解を受けたとすれば、和解を受けている今は、なおさら、彼のいのちによって救われるであろう。”（ローマ人への手紙 5:9,10）としました。 予言者イザヤはイエス様が苦難を受ける理由を次のように予言しました。 “しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。”（イザヤ書 53:5). イエス様が懲戒を受けたことは神様と私たちの間に敵になった壁を崩してしまって睦まじくするためであるからです。 そして真の平和を享受させるためなのです。 ローマ人への手紙 5 章 1 節には “このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。” としました。 誰でも悔い改めて福音を信じれば義のあるようになって、義のあるようになった人は神様と睦まじくなります。 そして私たち主イエス様によって神様といっしょに平和を享受する生活をするようになります。
イエス様を信じて義のあるようになったし、神様と和睦になったし、神様といっしょに平和を享受する聖徒は他の人々もこのような福を享受するように福音を伝えなければなりません。 この事は神様がくださった聖なる光栄なおこってします。 聖書に記録されるのを “しかし、すべてこれらの事は、神から出ている。神はキリストによって、わたしたちをご自分に和解させ、かつ和解の務をわたしたちに授けて下さった。すなわち、神はキリストにおいて世をご自分に和解させ、その罪過の責任をこれに負わせることをしないで、わたしたちに和解の福音をゆだねられたのである。”（コリント人への第二の手紙 5:18,19）しました。 福音を伝える事は平和させる仕事の中に最上最高の職責です。
“平和をつくり出す人たちは、さいわいである、彼らは神の子と呼ばれるであろう。” しました。 平和をつくり出す人たちは、さいわいであります。 神様の息子で呼ばれるであろう福があります。 息子はお父さんのような家に住むお父さんの財産を継がれる特権を享受します。 神様の息子になった者が将来享受する富裕さと幸せと光栄は世の中のその何でも充分に比べることができないです。 イエス様を信じる人は神様の息子という身分を持ちました。 イエス様を信じる人はすべて神様の息子だが特に平和させる仕事に力をつくす人は “果して神様の息子らしい。” という認定と称賛を受けるようになります。

聖徒皆さんは力をつくして他人と平和するように生きてください。 反目する人々間に入って行って平和のために仲裁する役目をしてください。 不信者に福音を伝えて彼らがイエス様によって神様といっしょに平和を享受するように仕事を楽しく行ってください。 そんなにするので皆さんは “果して神様の息子である。” という認定と称賛を受けるようになるように願いします。